

県内ワイド

情報の

元気よ、届け

日赤県支部。被災地便り



日赤県支部
総務課長
山本裕行さん

い人の家
護班がい
は、巡回
る。そこ
被災した
覚えるほ
かつた。

や、常駐の救護室に避難所に診療に出掛けた。天井壁のかけらが落ちて床に散乱し、電気も消える。近くでは消防が警報アナウンスで「大きな地震が発生しました。警戒してください」と何度も呼びかけていた。

A vertical photograph of a woman with short dark hair, wearing a light blue surgical mask over her mouth and nose. She is wearing a grey vest over a red long-sleeved shirt. The vest has a small white label with the Chinese characters '红十字' (Red Cross) and a red cross emblem. She is smiling slightly and looking towards the camera. Her hands are clasped in front of her.

きに生きている。東北の方々の強さ、心のつながりを学びました」と話した。日赤県支部救護班第九班の班長、福井赤十字病院・松倉規医師も「救護所に来られた被災者にはストレスケアも勧めたが、皆、気丈に振る舞い『大丈夫です』と話さ

けて「（気丈に振る舞うことが）かえって気がかりだった」とも。福井赤十字病院・松倉のように対応するのか、岩手県陸前高田市の岩手県立第一中学校の避難所。『旦那、流れちまつた。あんた、一緒

女性は「福井だあ、懐じょうずだあ」と笑った。家族は全員無事だったが、自宅は流された。それでも「オレの避難所も日赤が来てくれて、ほんとありがたかった。みんなで頑張つていくさあ」。

七日夜、余震としてきた。は最大規模の震度6強だったが、自宅は流された。それでも「オレを観測、津波警報も発令された時のこと。第一中学校から一時間先に現地対策本部へ

女性は「福井だあ、懐じょうずだあ」と笑った。が起つた。

女性は「福井だあ、懐じょうずだあ」と笑った。が起つた。

女性は「福井だあ、懐じょうずだあ」と笑った。が起つた。

「根こそぎ救つたる」と意気込んで現地に入つたが、どれだけの手助けができるだろ
うか。数日間を一緒に過ごし、笑顔をもらつたあの人たちの顔を、
「もー一人一人思い出し
ている。

氣丈さ打たれ泣き笑う

A portrait of a middle-aged man with a shaved head, wearing a white lab coat over a light blue shirt. He is smiling slightly and looking towards the camera. The background is a clinical or laboratory setting with shelves and equipment visible.

さつした際に、「寂しいよ、ずっといればいいのに」「絶対、福井へ遊びに行くからね」と、避難所の人たちからたくさんの感謝や惜別の言葉をもらつ

田赤救護班の被災地での活動は、避難所で
の救護所開設、避難所内の往診、巡回診療が
主な業務。直接、被災者にていた」と報告した。
ただ、松倉医師は続けた。
女性が声を掛ける。福井県出身だという別の

この地方の有名な手作りみそを「うめえかう食ってみろ」と差し出してくれた。「うんめえ」と東北弁をまねると、「あんちゃん、高さは五〇秒と聞いた掛けていた。救護の第一人者である医師たちも、さすがにこの時は壁にしがみついた。でも、津波が

巡回診療先でも、看護師との間で笑顔が絶えない=岩手県陸前高田市で（日赤県支部提供）

いたら一緒に泣いてくれるほうがいい」と返